

展示記録

企画展「片平キャンパスの過去・現在・未来」

加藤 諭・清水 翔太郎・曾根原 理

会期 平成29年9月29日(金)～12月15日(金)

会場 東北大学史料館2階 第2企画展示室

主催 東北大学

協賛 東北大学キャンパスデザイン室、仙台市

(1) 企画の趣旨と開催の経緯

東北大学片平キャンパスは、平成29(2017)年度の都市景観大賞(主催:「都市景観の日」実行委員会、後援:国土交通省)において都市空間部門特別賞を受賞した。また、片平キャンパス内の5つの建物が、国の「登録有形文化財」として登録されることになった。

もともと片平キャンパスは、明治44年(1911)に東北帝国大学の理科大学が開設された地で、それ以前からの歴史がある旧制第二高等学校、仙台医学専門学校、仙台高等工業学校などの建物も残り、明治・大正・昭和戦前期の近代建築を見ることが出来る、仙台市内でも稀な地区となっている。

こうした点から、2017年の企画展示で片平キャンパスの建物群を取り上げることになった。ちょうど2年に1度の、片平地区などの東北大学附置研究所等の一般公開事業(「片平まつり」10/6-7)とも時期的に重なったことから、多くの一般市民にも周知する機会となった。

(2) 展示の構成や関連行事など

それぞれの建物の特徴によって、全体を6つの部分から構成した(詳細は(3)参照)。

- A. 歴史的建造物をそのまま保存・活用
- B. 歴史的建造物を改修し保存・活用
- C. 歴史的建造物の外壁を再生する改築
- D. 歴史的建造物の外壁を保存しながらの改築
- E. 改修における歴史的建造物とのデザインの調和
- F. 新築における歴史的建造物とのデザインの調和

展示パネル24枚は、東北大学キャンパスデザイン室が作成し、8つの展示用縦ケースやその周辺に配置した。展示ケース内の資料の選定・配置と解説作成を史料館教職員が担当した。

展示期間内には、上記「片平まつり」の全体企画「片平キャンパス歴史散歩」(清水担当、参加30名)やミニ講義「片平の建物の不思議」(加藤担当、参加24名)、SMMA 見験楽学ツアー/片平まつりジョイント企画「片平キャンパス歴史散歩」(加藤担当、参加20名)に加え、「片平キャンパス建物ツアー」を計4回実施し(10/1と11/3各2回、総合学術博物館・広報課・キャンパスデザイン室と合同、計86名参加)、10/28の都市景観シンポジウムの際にも建物ツアーを実施した(45名参加)。

史料館での展示終了後は、川内キャンパスに会場を移し、2018年1月4日から2月9日まで東北大学附属図書館1階多目的室で、巡回展示「片平キャンパスの過去・現在・未来」展も開

催した。

(3) 展示資料・解説など一覧

A. 歴史的建造物をそのまま保存・活用

1. 旧仙台医学専門学校博物・理化学教室棟（現東北大学本部棟3）
2. 旧仙台医学専門学校六号教室（東北大学魯迅の階段教室）

仙台医学専門学校建物図

1906年（明治39）当館所蔵／『仙台医学専門学校一覧 自明治三十九年 至明治四十年』

階段教室（六号教室）及び本部棟3が建造されてから2年後の仙台医学専門学校の建物配置図。これらの建物は、大正末まで、ほぼ同じ配置で大学本部や理学部の講義室として使用されていたが、昭和初年、理学部化学教室の建設に伴い、取り壊されるか分断され、一部が引き続き使用されることとなった。

3. 旧第二高等学校書庫（現文化財収蔵庫）

石井組仙台出張所建物写真帳

1910年前後（明治末年～大正初年）当館蔵

東北帝国大学、第二高等学校、医学専門学校などの建設工事を請け負った石井組が撮影した写真アルバム。石井組は伊勢屋横丁1番地に仙台出張所を開設し、工事を進めた。1910年前後の工事や新築の建物の様子がわかる貴重なアルバムである。

【写真】第二高等学校図書閲覧室 1912年（大正元）頃当館蔵／『石井組仙台出張所建物写真帳』

完成間近の第二高等学校図書閲覧室の写真。左側にはすでに完成していた書庫（現文化財収蔵庫）が見える。



第二高等学校全図

1910年（明治43）当館蔵／『第二高等学校一覧 自明治四十三年 至明治四十四年』

1912（大正元）年当館蔵／『第二高等学校一覧 自大正元年 至大正二年』

文化財収蔵庫完成直後の第二高等学校の建物配置図。現在の二高記念苑附近に設けられた正門を中心に木造の建物が配置され、ほとんどの建物が渡り廊下でつながっていた。

第二高等学校では図書館は独立して建造されていなかったが、書庫であった本建物が建造された後、1912（大正元）年、東側に閲覧室などが完成した。

B. 歴史的建造物を改修し保存・活用

1. 旧東北帝国大学附属図書館閲覧室（東北大学史料館）

閲覧の栞

1935年（昭和10）当館蔵／『閲覧の栞 自昭和十年 至昭和十一年』

1935（昭和10）年に作成され、学生に配布された閲覧案内。一階は事務室や教官の雑誌閲覧室があり、二階が学生の閲覧室となっていた。略図からは、閲覧席は144席あったことがわかる。開館時間は、平常開館の場合、平日は午前8時から午後9時、土曜日は午前八時から午後6時、日曜日は午後6時から午後9時までであった。

なお、昭和10年3月時点での蔵書数は、和漢書163,628冊、洋書92,919冊であり、それらは隣接した書庫に納められていた。

法文学部図書閲覧室新築設計図

1924年（大正13）施設部所蔵

現在の史料館の正面と側面の設計図。

2. 旧東北帝国大学理学部化学教室棟（東北大学本部棟1）

構内整理平面図（複製）

1932年（昭和7）当館蔵／『昭和八年度予算決定経過書類』

昭和8年度予算の概算要求に際して作成された、構内の道路整理に関する図面。正門から現在のエクステンション棟にかけての大路の整備をはじめとした道路の整理が計画された。昭和10年度予算には、構内道路舗装及び排水管敷設費として16,500円が含まれており、翌年の創立25周年式典に向けて整理が行われた。

昭和八年度東北帝国大学理学部化学教室改築及本部事務室新営平面図（複製）

1932年（昭和7）当館蔵／『昭和八年度予算決定経過書類』

昭和8年度予算の概算要求に際して作成された化学教室と本部事務室の建設計画の図面。本部事務室は、現在のエクステンション棟の場所に建設されることとなるが、当初の案では、学都記念公園の場所にも階段教室（㊄）など旧医学専門学校の建物を移築して建設する計画であったようである。

化学教室については、延床面積3,6962㎡、3ヶ年549,000円で概算要求をしたが、文部省査定

額は2ヶ年で299,250円、大蔵省査定額は延床面積約1980㎡、2ヶ年20万円と大幅に減額されたことから、西側は建設することができず、南側のみとなったようである。

3. 旧東北帝国大学法文学部二号館（会計大学院研究棟）
4. 旧東北帝国大学工学部機械・電気工学教室（多元物質科学研究所南1号館＋事務部棟）
5. 仙台高等工業学校建築学科（21世紀情報通信研究開発センター）

片平丁構内戦災図 1946年（昭和21）当館蔵／『昭和二十一年度戦災復旧建物及設備品費要求書』

1945（昭和20）年7月10日未明の空襲により焼失した建物の被害状況を表した図面。赤ボールペンは焼失建物、黒ボールペンで修繕建物、鉛筆で取壊建物が表されている。1911（明治44）年に建てられた理学部本館や第二高等学校から引き継いだ法文学部の木造建物など、片平キャンパス内の建物の40%が失われたとされる。文化財収蔵庫や史料館など比較的頑強な建物は延焼を逃れ、今日まで残ることとなった。

C. 歴史的建造物の外壁を再生する改築

知の館（旧東北帝国大学理学部化学教室）

理学部化学教室の平面図 1953年（昭和28）当館蔵／『東北大学理学系研究科関連図面』

片平時代の理学部化学教室がおかれた建築の、一階から三階までの平面図。教授室、講義室、実験室、図書室、会議室などに加え、ガラス工場があった。実験器具などを製造したと思われる。

換気口

1927年（昭和2）キャンパスデザイン室蔵

旧化学棟にはめ込まれていた換気口のレリーフ。

D. 歴史的建造物の外壁を保存しながらの改築

WPI-AIMR 本館（旧東北帝国大学工学部金属工学教室）

【写真】工学部金属工学科の玄関前

1941年（昭和16）当館蔵／及川美恵子史料1

戦前の金属工学科の玄関前で撮影された集合写真1点。集まった5名のうち、上段左が大平 五郎、左端は斎藤 恒三である（ともに後の教授）。



移転前後の片平キャンパス

1963年（昭和38）当館蔵／『東北大学一覧 昭和三十四年から三十七年まで』

1976年（昭和51）当館蔵／『東北大学要覧 昭和51年度』

昭和40年代の「キャンパス移転」によって、理学部・工学部・文系学部は川内青葉山地区に移動し、本部と研究所群の残された様子がうかがえる。

E. 改修における歴史的建造物とのデザインの調和

F. 新築における歴史的建造物とのデザインの調和

東北大学キャンパス マスタープラン

2010年（平成22）3月当館蔵

東北大学のキャンパスを「片平」「星陵」「川内・青葉山」の三箇所にも再編成し、相互に有機的な連携を図る「トライアングル・ビジョン」に沿って、2015年の地下鉄東西線開業を意識しつつ作成された。

片平キャンパスについては、「東北大学発祥の地」「利便性」「都心のオープンスペース」といった特徴を生かした構想が示された。

都市景観大賞の盾

2017年（平成29）キャンパスデザイン室蔵

東北大学片平キャンパス地区が「都市空間部門 特別賞（理事長賞）」を受賞した際に贈られた記念の盾。

国土交通省は平成23年度から、公共的空間と建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、市民に十分に活用されている地区を対象にした「都市空間部門」、地域に関わる人々の景観と関わる活動を対象にした「景観まちづくり活動・教育発部門」の2つの部門で表彰を実施している。

なお今年度の大賞（国土交通大臣賞）は半田運河周辺地区／クラシック草津地区／長野駅善光寺口駅前広場地区の3件、優秀賞（都市づくりパブリックセンター会長賞）が福井駅西口地区、特別賞が片平キャンパス。